



「保険でより良い歯科医療を」 愛知連絡会ニュース

「保険でより良い歯科医療を」
愛知連絡会

〒466-8655
名古屋市昭和区妙見町19-2
愛知保険医会館内
TEL ; (052)832-1349
FAX ; (052)834-3584

「保険でより良い歯科医療を」 愛知連絡会第15回定期総会を開催 請願署名の取り組みをすすめましょう

- ◇日時／会場:2021年5月30日(日)／愛知県保険医協会伏見会議室(Web併用)
- ◇参加:66人(現地参加21人, Web参加25カ所45人)
- ◇総会議事:開会挨拶, 2020年度活動報告, 2021年度活動方針案, 2020年度決算・2021年度予算案, 2021年度役員・世話人体制, 旅費・講師料規定 ※提案された議案については, 拍手で一括して採択されました。
- ◇記念講演:「災害時, 口腔ケアが命を守る～Withコロナに向けて～」
講師:足立平氏(兵庫県三木市・ときわ病院歯科口腔外科部長)



「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会は、5月30日(日)午前10時から第15回定期総会を保険医協会伏見会議室で開催しました。

昨年度はコロナ禍の下、議案書の郵送で承認を得る方法で行いましたが、今回は感染防止対策を講じ、Web参加の方法も併用しての開催としました。伏見会議室に21人、Webでは25カ所との接続で45人、合計66人の参加でした。

総会開催にあたって、江原雅博会長から開会挨拶と活動報告・方針案の提案がありました。「前回の総会は、新型コロナウイルスの感染拡大を懸念し開催することができず、昨年度は計画した取り組みも、ほとんど実施することができなかった。しかし、今日の総会は、Webも併用して開催している。困難と思われる状況

でも、感染対策を行い新しい技術や工夫のできることを増やしていける。2021年度は、最大の課題として現在取り組んでいる請願署名を位置づける。目標を6万筆として旺盛にすすめたい。現在、5298筆を集約して、目標の9%の到達状況。新型コロナだけでなく、県知事リコール署名偽造もあり厳しい状況だが、多くの人に声をかけることが大切だ。協力をお願いしたい。」と訴えました。

提案された報告・方針案は、決算・予算案、役員・世話人体制案、旅費・講師料規定の新設案とあわせて一括採択されました。



<記念講演>

記念講演は、兵庫県三木市・ときわ病院歯科口腔外科部長の足立平氏に「災害時, 口腔ケアが命を守る～Withコロナに向けて」をテーマにお話しを伺いま

した。緊急事態宣言下、足立氏も名古屋に来ることができず、地元からWebによる講演となりました。

足立氏は、「高齢者施設で専門的口腔ケアを行うことで、肺炎の発症が40%軽減したこと、食道がん患者の手術前に口腔ケアを実施すると、術後肺炎、縫合不全、入院日数が減少したことなどを歯科から発信してきた」と紹介。

また、災害時には、高齢者の肺炎死が顕著になる。これまでの災害における関連死では、肺炎など呼吸器系疾患が25～30%を占めている。高齢者にとって、口腔ケアは命を守るケアであると強調した上で、「災害は社会の脆弱な部分を露わにする」として、災害から学ぶことが必要だと述べました。

慢性の全身性炎症がある者はそれがベースとなり、糖尿病、認知症、胎児への影響などを引き起こすこと、



新型コロナウイルスにおいても重症化しやすい。しかし、歯周病による慢性の炎症が常にあったとしても口腔内は見過ごされやすいため、口腔の内毒素を全身に拡散しないよう口腔ケアと歯周病の治療が重要になると話しました。

災害時、避難所では、水の使用が制限され、自宅にいたときと違う生活様式などから歯磨きの回数が減るなどの問題点がある。災害時には口腔ケアの優先度が削られる。災害時に限らず口の健康を守るためには、患者自らの意識も必要だが、国がシステムとして全面的に支援する義務がある。

「個人の意識」と「社会システム」双方の成熟が必要であるとまとめました。

◆◆トピックス◆◆

「子どもへの歯科矯正への保険適用の充実に関する請願」は国会最終日の6月16日の衆議院厚生労働委員会で、全会一致で採択されました。

歯科技工士問題を考える国会内集会 全国180カ所から300人以上が参加

「保険で良い歯科医療を」全国連絡会は「第6回歯科技工問題を考える国会内集会」を、4月22日(木)に国会内で開催しました。全国の歯科技工所、歯科技工士養成機関、歯科診療所など、全国180カ所で300名以上がWebで参加しました。愛知からは呼びかけに応じて歯科技工士3人と歯科医師4人、保険医協会事務局3人が保険医協会伏見会議室からWebで参加しました。

今回は、各都道府県の保険医協会などから歯科技工士会、歯科技工士養成学校への働きかけ、歯科技工士への直接の呼びかけがなくてなく行われ、歯科技工士間の参加の呼びかけもあったことから、これまでになく、歯科技工関係者の参加が広がりました。また、日本歯科技工士会や各地の歯科技工士会等からもメッセージが届きました。

集会には与野党をこえて

16人の国会議員が参加。参加した国会議員秘書は40人近くにのびりました。

◆基調報告「歯科技工問題と今後の運動」

基調報告にたった雨松真希人さん(全国連絡会会長・歯科技工士)は、高い離職率、技工士の低賃金・長時間労働など就労環境の問題は低い歯科技工料金にあることを指摘しました。あわせて新型コロナウイルス感染拡大の中で医療関係の各種の融資制度や財政支援に歯科技工所が対象とならないことや受けづらいために、歯科技工所の経営が危機に陥って

いることに言及しました。歯科技工料金についての議論なしには歯科技工問題の解決はあり得ない、歯科技工士と歯科医師が患者・国民と共に歯科技工問題の改善に向けて一丸となって取り組んでいこうと呼びかけました。

◆討論—歯科技工関係者からの発言相次ぐ

討論では、会場とWebから参加した歯科技工士会長、歯科技工士養成機関の校長・理事長など歯科技工関係者から、「歯科技工はやりがいのある仕事。若い歯科技工士が離職しなくてもすむ環境づくりを」「歯科技工物の保険点数の引き上げを」「歯科技工士に確実に技工料が行き渡る制度設計を」「歯科技工所の廃

業が続くと一番困るのは国民」といった発言が相次ぎました。

歯科医師からも「歯科技工士がいなくなれば、日本の歯科医療は崩壊する。技工問題は保守も革新もない」「ここで運動しないと歯科はダメになる」といった危機感がだされました。あわせて、東京歯科保険医協会、長野県保険医協会、兵庫県保険医協会から、この間行ってきた「歯科技工所アンケート」が報告されました。

◆閉会挨拶—歯科医療そのものの危機

閉会挨拶にたった岩下明夫さん(全国連絡会副会長・全日本民医連副会長・歯科医師)は、「保険でより良い歯科医療を求める請願署名」を紹介し、「歯科技工問題を歯科技工士だけの問題とするのではなく、歯科医療そのものの危機であることを認識し運動を進めよう」と呼びかけました。

この日は、集会前に歯科技工士・歯科技工士養成機関関係者との懇談会、集会後には厚労省要請を行いました。



保険でより良い歯科医療の実現を 国への請願署名の取り組み

7,000筆を突破しました。引き続き6万筆目標達成をめざして

はがき署名入り
ポケットティッシュも
準備してます



4月から取り組んでいる請願署名は6月15日現在で7,049筆、目標の14.09%の達成率です。

今回の請願署名は、愛知県知事リコール署名で話題になった「直接請求書名」とは異なり、家族などで了解が得られれば代筆することもできます。

署名用紙は家族などの名前を書いていただいたら、交換しやすいように5名連記の用紙を活用しています。全部埋まっていなくても大丈夫です。

また、ハガキで返送できる署名入りポケットティッシュや歯科医療の充実を訴えるリーフもありますので、どんどん活用してください。



署名・リーフなどご希望の場合は⇒052-832-1349まで